



NATIONAL
ASSOCIATION OF
SCHOOL
PSYCHOLOGISTS

特別な教育ニーズのある（障害のある） 子どもが新しい学校へ通う際に：移転した家族へのヒント

Adapted and Translated From
New Schools for Students With Disabilities:
Tips for Families Who Have Been Relocated (NASP)

新しい地域に引っ越す理由はいろいろあるでしょう。なかでも、一番苦勞する場合は、準備もままならぬ状態で、突然なじみのないところに移動する場合であり、特になんらの資金や支援がない状況での移住です。今回の日本の大地震、津波、原発の問題により、移転を余儀なくされたご家族はこのような場合にあたるでしょう。一時的な避難はもちろん、たとえ長期に移住できる仮設住宅などに避難する場合でも、子どもを学校へ通わせることは大変な苦勞です。学校に通う子どもを育てることは、どこの家庭でも大変なことですが、特に障害などで特別な教育ニーズのある子どもさんを育てるご家族には難しいことが待ち受けています。この資料は、移転し、障害のある子どもをもつ保護者の方々のために役立つヒントをまとめたものです。

教育を受ける権利があること

どこに住んでいたか、どこに移住したかにかかわらず、子どもは、現在住んでいる地区で教育を受ける権利があります。長期に住める居住地がなくても、子どもは学校へ通い、教育を受ける権利があります。これは特別支援教育や学校への交通支援なども含みます。更に障害のある子どもには特別な教育ニーズに対応した教育を受ける権利があり、転校した新しい学校でも同じ教育や支援を受ける権利があります。移転した家族は家をなくし、子どもの教育に関する書類もない状態でしょうが、このような状況であっても、子どもを学校へ通わせることはできます。ただし、こうした自然災害による危機状態の中、子どもを学校へ通わせる際に、保護者、子ども、そして迅速に対応する学校側には、いくつもの課題があるでしょう。

迅速に学校に通えるようにすること

移転してきた家族が多い地区では、自治体は保護者が近隣の学校の情報や登校の手続きについての情報を得られるようにする必要があります。見知らぬ場所で、相談する相手がいなくても、近くの公立の学校へ行けば必要な情報を得ることができます。学校の事務の方が学校への入学や登校手続きや特別な支援に関する情報を教えてくれます。まず、最初にするべきことは、学校への入学手続きを済まし、学校に通うようにすることです。

お子さんの学校教育や健康に関する情報を集め整理すること

子どもさんの通っていた学校自体が大きな被害を受け、学校や健康に関する記録などを入手することができないかもしれません。そのようななか、家族の大事な記録を持ち出せた場合もあるでしょう。下記に示す書類があるかどうかを確認し、学校の手続きの際に持っていきましょう：

- 出生証明書（ない場合は、他にお子さんの年齢を証明できるもの）
- 予防注射の記録（母子手帳など）
- 健康診断の記録（身体検査、服用している薬、手術など）
- （もしあれば）障害者手帳、療育手帳
- 「個人の指導計画」「個別の支援計画」、その他の特別支援教育に関する書類（教育相談や検査の記録や特別に支援してもらっていたことなど）
- 成績表
- 学力テストの結果など

このような記録や書類がまったくない場合もあるでしょう。そのような状況なら、保護者（と子どもさん）が学校教育や健康について覚えていることだけでも書き留めて、そのメモを学校へ持っていきましょう。詳細を全部覚えていなくても心配はいりません。移転先の学校が、適切な教育計画を作成できるよう支援してくれるでしょう。

次のことについて、（もしくは可能な年齢であれば、子どもさんと）を確認しましょう。

- （幼稚園からはじめ）登校していた学校は？学校の名前と地区をリストアップします。
- 子どもさんが楽しんでできること、得意なことは何ですか。どのような環境が、過ごしやすく、勉強しやすいですか。
- 「特別支援教育」を受け始めたのはいつ？
- どの科目や領域で特別な支援を受けていましたか？（読み、算数・数学、言語、運動、行動など）
- どのような障害で特別支援教育を受けていましたか？（学習障害、注意欠陥多動性障害、（高機能）自閉症、言語障害、知的障害など）
- どのような特別支援教育を受けていましたか？（学級での支援・配慮、小集団または個別で補習、通級による指導、特別支援教室、特別支援学校など）
- 特別支援教育は一日にどれくらいの時間を受けていましたか？
- 一番最近の教育相談や検査の結果、または教育成果の評価（振り返り）について思い出せることはありますか？最後に教育相談・検査を受けたのはいつですか？
- 「個別の指導計画」「個別の支援教育」の教育目標はどのようなものがありましたか？それは、どうでしたか？
- 普通教育クラスは、一日何時間ほど受けていましたか？
- 通常学級や特別支援学級などでは、どのようなプログラムや教材を使っていましたか（読書や算数のプログラムの名前を覚えていますか）？
- 子どもさんの行動面については、なにか指導はありましたか？どのような行動が問題でしたか？どのような指導を受けていましたか？
- どのような支援や配慮を受けていましたか？例えば、教室の中での席の配置や、必要な機器、あるいは、テスト時の時間の延長など。

特別支援教育を適切に受けられるよう求めること

学校は、障害のある子どもも含めて、すべての子どもに適切な教育をすることが重要です。子どもさんが学校に通い始めたらずぐに、必要な支援がなにかを明らかにしましょう。「個別の指導計画」「個別の支援計画」の作成は、少し時間がかかるかもしれませんが。必要な支援を明確にするために、スクリーニング（簡単なアセスメント）、または包括的なアセスメント（例：WISC-IVなどの個別の心理検査）を実施することが必要かもしれません。その間、適切なクラスやプログラムで授業が始まり、子どもさんの学力に関する情報が集められます。時には保護者からの情報で、学校が一時的、あるいは「暫定的」な「個別の指導計画」を立てることもできるでしょう。また、「最善の推測」のもとに、必要なプログラムに参加させ、観察、スクリーニング、可能なら心理検査などを通して、子どもさんに適した環境で支援ができるよう調整していくことになるでしょう。教育に関する法律もありますが、地震、津波、原発の問題のような非常事態において、すべての子どもに適切な教育環境を保証するためには、忍耐と柔軟性を忘れずに行動することが重要です。

学校、自治体の職員、地区の支援関係の人と連絡を取る際に、後で同じ人と継続して連絡ができるよう、必ず相手の名前と電話番号や話した内容などを記録してください。

援助資源や支援してくれるネットワークを探すとよいでしょう。子どもさんや家族が、地震や津波や原発の問題、また、移転したことなどによる情緒的な状態が気になりなら、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが、適切な支援が何かについて相談にのってくれます。特別支援教育コーディネーターやカウンセラーらは、家族に必要な情報を提供するその地域の支援機関や団体についての情報をたいてい知っています。障害がある子どもやその家族を支援してくれる団体や機関があるか尋ねてください。そこでは、適切な支援や教育に関する規則、手続き、資料を提供してくれることでしょう。

場所が変わろうとも、子どもは教育を受ける権利があることを忘れないでください。特別な支援教育を受ける権利も同じです！保護者は、子どもの教育に関する判断をしていかなければなりません。最後に、新しい学校の教職員と積極的に接していきましょう。保護者と学校とが親密な関係であればこそ、子どもさんが得るものは大きいものとなるでしょう。

Adapted and translated from "New Schools for Students With Disabilities: Tips for Families Who Have Been Relocated", National Association of School Psychologists (2001), by a Elina Saeki, Doctoral Candidate in School Psychology University of California, Santa Barbara and Dr. Yayoi Watanabe, Hosei University in Japan in collaboration with Dr. Shane Jimerson, University of California, Santa Barbara and reviewed by Dr. Toshinori Ishikuma at Tsukuba University in Japan. This handout and other crisis information posted on the NASP website.

©2011, National Association of School Psychologists, 4340 East West Highway #402, Bethesda, MD 20814 *This and other crisis information is available on the NASP website at www.nasponline.org*